



# [財]日本太鼓連盟

## NIPPON TAIKO FOUNDATION

発行・編集 2005年 1月

〒107-0052 東京都港区赤坂1-2-2 日本財団ビル5階

財団法人日本太鼓連盟 理事長 塩見 和子

Tel.03-6229-5577 Fax.03-6229-5580

URL:<http://www.nippon-taiko.or.jp> Email:[info@nippon-taiko.or.jp](mailto:info@nippon-taiko.or.jp)

会報

## 年頭のごあいさつ



財団法人 日本太鼓連盟  
会長 紀内 隆宏

新年明けましておめでとうございます。

昨年2004年は当財団にとってまた日本太鼓界にとって大きな出来事があった年となりました。財団の池田副会長が昨年11月の叙勲において、長年にわたる太鼓界における功績が評価され「旭日雙光章」を受章されました。これは日本太鼓界にとって初めての栄誉であり、日本太鼓が国から伝統芸能として認められた画期的なことであります。

日本太鼓への評価は、国内にとどまらず海外においても一層高まってきており、昨年1月にはアメリカ太鼓連盟がまた2月にはブラジル太鼓協会がそれぞれ設立されております。ブラジルには協会設立を記念して東京の太鼓チーム「天邪鬼」を派遣し、日本の太鼓をブラジルの人々に堪能していただきました。また本年3月に横浜で行われるジュニアコンクールにはブラジルのジュニアの優勝チームを招聘することを計画いたしております。

国内におきましては従来から実施しております「ジュニアコンクール」を岐阜県羽島市で、「チャリティコンサート」を東京都港区で、「全国フェスティバル」を山形県天童市で、「全国障害者大会」を長野県諏訪市でそれぞれ当該支部の皆様のご協力を得て開催し、技術の向上を図るとともに多くの人に太鼓を楽しんでいただきました。

また昨年特に力を入れた事業として、学校教育の中に日本太鼓を普及させるため、学校の教職員を対

象とした講習会を各支部の主催により全国10箇所の道・県において実施し、参加された教職員の方々から大変好評をいただきました。本年においてもさらにこの講習会を重点事業として推し進めていきたいと考えております。

技術の普及と後継者の育成を目的とした講習会の実施については、3回の全国講習会と4回の支部講習会を実施し、現在公認指導員、技術認定員の資格取得者数はそれぞれ180名、3,745名となっております。

このように当財団の事業が拡大する中、現在36都道府県に40支部、820チーム、23,000名の会員数を擁しておりますが、関係者のご協力を得て全都道府県に支部を設置し、更なる会員の拡大を図りたいと考えております。

2005年につきましても「全国フェスティバル」をはじめとする演奏会、「全国講習会」等の技術普及事業については当該支部の協力を得ながら内容を充実し、進めていきたいと考えております。

中でも「全国フェスティバル」については万国博覧会である「愛・地球博」会場内の万博ドームでの開催を予定しており、博覧会を訪れる世界各国の人に日本太鼓の楽しさ・魅力を知っていただく絶好の機会と捉えております。

また本年は、「日本・EU（欧州連合）市民交流年」にあたるとともに知的障害者のスポーツ競技会である「スペシャルオリムピックス冬季世界大会」が長野県で開催されることになっております。これら国家的イベントへの協力等、時宜にかなった事業も、従来の事業に加えて行っていきたくと思っております。

これらいずれの事業も会員の皆様のご協力なくしてできないものばかりであり、支部、会員の皆様との連携・協調を図りながら2005年の事業遂行に当たりたいと考えております。

最後に2005年が日本太鼓界と会員の皆様にとって良い年になるよう心からご祈念申し上げ新年のご挨拶といたします。

# 池田庄作副会長が旭日雙光章を受章 ～太鼓界で初の叙勲～

この度の秋の叙勲で、当財団の池田庄作副会長が旭日雙光章を受章されました。

国内のみならず、海外でも日本を代表する伝統芸能として高く評価されている日本太鼓の功績が、やっと公に認められたものであり、太鼓界初の叙勲であります。

これは、池田副会長の14歳の時から現在までの70年の間、御陣乗太鼓の保存、継承と後継者の育成に努められ、日本太鼓を広く世間に広められた功績が高く評価されたものです。

御陣乗太鼓保存会、(社)石川県太鼓連盟、北陸三県太鼓協会などの発展に貢献されており、当財団にも、24年前の任意法人であった全日本太鼓連盟設立から、7年前の財団法人設立時を経た現在まで、副会長として日本太鼓の発展のため、ご指導いただいております。

そのご活躍の中でも、カンヌ映画祭審査員特別賞を受賞し世界に名をはせた、「砂の女」での出演演奏や、海外公演を先駆けて実施されたことは、輪島の太鼓を広く世間に宣布されただけでなく、地域の祭りごとの太鼓としか知られていなかった全国の日本太鼓が、日本の伝統芸能として脚光を浴びる、大きなきっかけとなりました。

12月5日に、石川県金沢市において、(社)石川県太鼓連盟が発起人代表となり叙勲を祝う会が盛大に行われました。



(旭日雙光章)



(祝う会の様子)

## 主な表彰・功績

- 昭和36年 御陣乗太鼓保存会  
輪島市無形文化財に指定
- 昭和38年 御陣乗太鼓保存会  
石川県無形文化財に指定
- 昭和51年 内閣総理大臣官邸より召集され出席
- 昭和54年 石川県知事より地域文化賞
- 昭和55年 内閣総理大臣官邸より召集され出席
- 昭和60年 石川県知事より表彰
- 昭和60年 石川県文化活動奨励賞を受賞
- 平成5年 輪島市より産業功労賞
- 平成12年 文部大臣より表彰

## 主な経歴

- 大正10年生まれ 83歳
- 昭和10年 名舟町「御陣乗太鼓」に参加
- 昭和35年 御陣乗太鼓保存会結成
- 昭和39年 北陸三県太鼓協会会長に就任
- 昭和40年 御陣乗太鼓保存会事務局長に就任
- 昭和54年 全日本太鼓連盟設立に世話人代表として参画
- 昭和60年 石川県太鼓連盟設立、理事長に就任
- 平成4年 全日本太鼓連盟副会長に就任
- 平成8年 (社)石川県太鼓連盟設立、理事長に就任
- 平成9年 (財)日本太鼓連盟設立、副会長に就任
- 平成11年 石川県芸術文化協会理事に就任

## 現在の要職

- (財)日本太鼓連盟副会長
- 御陣乗太鼓保存会名誉顧問
- 北陸三県太鼓協会会長
- (社)石川県太鼓連盟理事長
- 石川県芸術文化協会理事

## 池田氏の功績たたえる

県太鼓連盟理事長 金沢で叙勲祝賀会



太鼓関係者で初めて叙勲を受けた県太鼓連盟理事長、北村貞典県議が順長の池田庄作氏の「旭日雙光章」受賞祝賀会に「あいつは、御陣乗太鼓の保存に一生を捧げた人だ」と語り、金沢市のホテル日航金沢で開かれた御陣乗太鼓をほめた。池田さんは謝辞で「すべての太鼓にかかわる者に『もっと頑張れ』と励まし、発起人を代表し、県太鼓連盟会長の飛田秀一、北國新聞社社長は「輪島の御陣乗太鼓を全国に認知させた功績は大きい。さらに頑張って太鼓文化を世界に発信してもらいたい」とあいさつした。

日本太鼓連盟の塩見和子理事長、馳浩代議員、岡田直樹参院議員、杉本述べた。

旭日雙光章  
池田 庄作氏  
県太鼓連盟理事長



### 半生を太鼓の普及に

少年時代から御陣乗太鼓に情熱を燃やしてきた輪島を拠点に全国を興行する中、思いは県の愛護者を兼ねる「太鼓はガン」という頭から離れなく、半生をかけた。

住民と水産を交わり、早くも昭和二十年代から欧米圏へ太鼓の観望が今後必要とする。82歳、輪島市名舟町へ26歳。創設し、今も会長として全国の八百工チーム約三万人に全国を興行する中、思いは県の愛護者を兼ねる「太鼓はガン」という頭から離れなく、半生をかけた。

力仕事は不足しがちな若い世代の観望が今後必要とする。82歳、輪島市名舟町へ26歳。

(掲載された新聞記事)



# 第6回日本太鼓障害者大会を長野県諏訪市で開催 ～過去最高の21チームが熱演～



(伊豆医療福祉センター どんつく)

10月3日、第6回日本太鼓全国障害者大会が長野県諏訪市において開催されました。当日は、折からの雨にもかかわらず1,100名の観客で賑わいました。

今回は、(財)日本太鼓連盟主催、社会福祉法人富岳会共催、長野県支部主管のもと、厚生労働省、文化庁のほか、地元の長野県、諏訪市等の後援をいただいております。

療育的な見地から日本太鼓に積極的に取り組んでいる21チーム、出演者317名が一堂に会し、団体数、出演人数とも過去最高となりました。太鼓演奏と、障害者本人や指導員による体験発表が行われ感動的な現場の声を聞くことができました。また、会場ロビーには、富岳会による絵画が展示され、多くの方が作品に強い関心を示されていました。

## 第7回大会は、京都府亀岡市で開催予定

第7回大会は今年の10月30日(日)に京都府亀岡市、ガレリアかめおかにおいて開催を予定しております。詳細につきましては、当財団事務局までお問合せ下さい。

## 国民文化祭・ふくおか2004

11月3日、福岡県サザンクス筑後において、「全国太鼓の祭典」が第19回国民文化祭筑後市実行委員会が主催となり開催されました。これは「第19回国民文化祭ふくおか2004」の一環で開催されたものであり、地元福岡県をはじめ、全国から集まった25団体の太鼓チームの演奏に加え、展示コーナー、ビデオコーナーが併設されました。

展示コーナーにおいて、当財団の活動内容を紹介したパネルを展示し、多くの方にご覧いただきました。

## <出演団体>

1. 富岳太鼓 竜神組 (静岡県)
2. NPO法人視聴覚二重障害者福祉センター すまいる (大阪府)
3. 石川県立ろう学校風神太鼓 (石川県)
4. 金谷大井川越し太鼓チャレンジチーム (静岡県)
5. 豊中ろう和太鼓クラブ「鼓響」 (大阪府)
6. 静岡県立静岡北養護学校 北龍太鼓 (静岡県)
7. 和太鼓ちんどん (長野県)
8. 飯田養護学校寄宿舎 あじまつ鼓太鼓 (長野県)
9. 新潟市ろうあ協会万代太鼓豊龍会 (新潟県)
10. 仁寿太鼓 (島根県)
11. 四国中央市いわくら太鼓ろうあ部会「鼓龍会」 (愛媛県)
12. やまびこ太鼓 (福島県)
13. 伊豆医療福祉センター どんつく (静岡県)
14. 長野県花田養護学校 はなだ太鼓 (長野県)
15. ファミリーユニット童鼓 (岐阜県)
16. 甲州ろうあ太鼓 (山梨県)
17. 恵那のまつり太鼓 (岐阜県)
18. 静岡ハンディキャップ太鼓の会 (静岡県)
19. 古塔山びこ太鼓 (長野県)
20. 豊里学園 和太鼓 鼓粋 KOIKI (大阪府)
21. すみれ太鼓 (長野県)



(絵画展)

## 藤枝太鼓が芸術文化振興功労賞を受賞

藤枝太鼓(静岡県藤枝市・代表寺田益男氏)が藤枝市制50周年特別表彰において、芸術文化振興功労賞を受賞されました。

これは、長年にわたる地域に根ざした積極的な活動により、藤枝市の地域文化の発展に大きく貢献されていることが高く評価されたものであり、心からお祝い申し上げます。

# 埼玉、佐賀で講習会を開催

～公認指導員・技術認定員4,000名間近～



(助六太鼓講座)

## ＜第21回日本太鼓全国講習会(埼玉)＞

第21回日本太鼓全国講習会が10月30・31日の両日、埼玉県支部、関東地区協議会が主管となりヌエック国立女性教育会館にて行われました。講習会は、地元埼玉県だけでなく、遠く宮崎県からの参加もあり、全国25都府県から176名が参加しました。

開講式は鯨井副支部長による開会の辞から始まり、当財団の塩見理事長、埼玉県支部から井関支部長がそれぞれ挨拶、引き続き嵐山町飯島教育長より歓迎の言葉がありました。

引き続き、先日2級公認指導員に昇級した高島奈々氏の認定式を行い、認定証とバッジを授与しました。高島氏は、当財団の認定制度開始以来、5級技術認定員から2級公認指導員に昇級してきた初めての指導員であります。

一流の講師により、2日間にわたって厳しい指導が行われ、受講生たちは、真剣な眼差しで太鼓に向かっていました。

### ○専門講座

助六太鼓講座	講師	今泉 豊氏
秩父屋台囃子講座	講師	高野 右吉氏
大太鼓講座	講師	山内 強嗣氏

### ○基本講座

総合指導	講師	古屋 邦夫氏
3級基本講座	講師	安江 信寿氏
4級基本講座	講師	渡辺徳太郎氏
5級基本講座	講師	松枝 明美氏
	講師	鈴木 孝喜氏

◇技術認定員検定の結果は次の通りです。

1級検定	28名受検	26名合格	(6名認定)
2級検定	30名受検	25名合格	(13名認定)
3級検定	12名受検	12名認定	
4級検定	20名受検	20名認定	
5級検定	47名受検	47名認定	

## ＜第21回日本太鼓支部講習会(佐賀)＞

佐賀県において、初めての支部事業となる第21回日本太鼓支部講習会が11月20・21日の両日佐賀市文化会館で行われました。

講座は、3・4・5級基本講座に加えて笛講座が設けられ、地元佐賀県だけでなく、遠く石川県からも参加があり、13府県から119名が参加しました。



(5級基本講座)

### ○基本講座

総合指導	講師	古屋 邦夫氏
3級基本講座	講師	安江 信寿氏
4級基本講座	講師	若山 雷門氏
5級基本講座	講師	松元 和敏氏

### ○専門講座

笛講座	講師	脇元まゆみ氏
-----	----	--------

◇技術認定員検定の結果は次の通りです。

3級検定	11名受検	11名認定
4級検定	28名受検	28名認定
5級検定	57名受検	57名認定

### 今後の講習会の予定

- 2月12日(土)・13日(日) 第22回日本太鼓全国講習会  
(鹿児島県牧園町・みやまコンセール)
- 2月19日(土)・20日(日) 第22回日本太鼓支部講習会  
(山形県酒田市・市立西荒瀬小学校)
- 3月5日(土)・6日(日) 第23回日本太鼓支部講習会  
(東京都港区・日本財団ビル)
- 3月12日(土)・13日(日) 第24回日本太鼓支部講習会  
(北海道札幌市・札幌芸術の森)

\*詳細につきましてはホームページ (<http://www.nippon-taiko.or.jp>) をご覧ください

### 3,925名が資格を取得

2005年1月現在の公認指導員・技術認定員数は以下の通りです。

#### ＜公認指導員＞

特別2名、1級22名、2級53名、3級103名、総数180名

#### ＜技術認定員＞

1級50名、2級93名、3級394名、4級687名、5級2,521名、総数3,745名



当財団では、各支部へ積極的な財団事業への参加を呼びかけておりますが、昨年は、富山県支部、佐賀県支部で初めての支部講習会が開催され、どちらも盛況に終了することができました。この度、感想を寄稿いただきましたのでご紹介いたします。

#### 富山県支部 事務局長 熊野 誠

今回、初めて富山県支部として連盟の行事を予定し、準備から当日の段取りまで、何も分からないまま時間が過ぎた事を今思い返しております。支部講習会の開催を希望し、会場の予約をしたところから始まり、開催要項の内容を検討、そして申込み。あっという間に当日を迎え、まだ何かやり残したことがあるようではありません。でも「開催してよかった」と今なら言える自分があることを嬉しく思います。

また、講習生の感想文を拝見し、それぞれの考えをもってこの講習会に臨み、太鼓の良さを感じ、太鼓という素晴らしい楽器で広がる「和」を感じました。今、改めて自分が5級を受けたときのことを思い出しております。

3年前、栃木県鹿沼市での全国講習会の際、公認指導員更新研修会に参加する富山県支部の役員と同行し、支部の世話をしている者の代表で5級を受講しました。受講生に、全く知り合いがいない中で受講しましたが、少しずつ気軽に話し合える仲間が出来、講習会というものを受ける立場で体験しました。そして、受講する立場から太鼓の教え方を学びました。まだ駆け出しの役員でしたが、この時から講習会を富山で開催できたらいいなあと考えていました。

その後、石川県で支部講習会があり、富山県支部の役員として会員に受講を促しました。一度受講している者からの説得力はかなりあったと思います。私も受講する予定でしたが検定日の予定が合わず初日のみ見学で参加しました。そのあと私は、講習会を受けることも大事ですが、お世話をする事で、もっと富山県内の太鼓団体へ情報を提供していきたい、そして更に、富山で講習会を開催したいという思いになったのだと今感じています。

この支部講習会は、財団スタッフ、講習内検定者、支部スタッフとして働いてくれた実行委員、その他裏方、そして受講生みんなの歯車がうまくかみ合っ成し遂げたのだと感じています。

是非、今度全国講習会を開催して下さいと声がかかっておりますことを、非常に嬉しく思っております。私も次は是非と考えています。今度は、今回以上にしっかりと準備をして望みたいと思います。

#### 佐賀県支部 支部長 田中 平一郎

第21回日本太鼓支部講習会が、去る11月20・21日の二日間、佐賀市文化会館において開催され、大成功に終了できましたことを、先ずもって全国の皆様にご報告申し上げます。

今回、佐賀県において支部講習会が行われましたことは、全九州あるいは佐賀県の太鼓愛好者にとりまして、大変価値があり実りのある講習会であったと嬉しく思っております。

佐賀県におきましても、太鼓チームの団体も増加しております。これも講習会の成果だと思えます。今回の講習会は全国の素晴らしい先生方をお招きしての、基本講座の5級、4級、3級と専門講座として笛講座を設けました。この笛講座は、笛だけではなく太鼓との合同（組合せ）でひとつの形として演奏できる内容といたしました。

また、5級講座と4級講座の中に二人のダウン症の児童が受講し、先生方の熱心な指導のおかげでみごと合格出来ましたことは、本当に喜ばしいことだと感謝する次第です。本当にありがとうございました。この講習会の成果を太鼓に対する技術の向上のみならず、清心の向上を含めたところの青少年育成、地域活性化、文化向上に役立てていただきたいと思えます。

今回の講習会の遂行にあたり、ご支援ご協力をいただきました（財）日本太鼓連盟、全九州太鼓連合、佐賀県太鼓連合、講師の先生方、そして運営に協力していただきましたスタッフの皆様心から感謝申し上げます。



(佐賀県支部講習会で設けられた笛講座)

# ジュニアコンクール石川県大会と併せてシニア太鼓大会開催

## ～全国初の試み60歳以上の大会～

11月28日、石川県金沢市において全国初の試みである60歳以上の太鼓の大会「第1回シニア太鼓大会」が、石川県太鼓連盟の主催により開催されました。

客席では「来年は、うちのじいちゃんを出したい」などの声が続出し、次の開催が早くも望まれる、大変好評な大会でした。

この大会について、実行委員長（石川県太鼓連盟理事）である木越 治氏より、寄稿いただきましたので、ご紹介いたします。

シニア太鼓大会実行委員長（石川県太鼓連盟理事）

木越 治

昨年、第6回のジュニアコンクール県予選真つ最中の控え室で、やはり自分のところの子供チームが参加している運営委員の方と「こんなに力が入り、息のつまる大会はないね。でも、なんか、こういうのでない、楽しい太鼓も見たいね」と話していたのがこのシニア大会誕生のきっかけである。

「だったら、審査の合間を利用して、60歳以上の人たちでシニア大会をやったらどうだろう」「その審査員は、子供たちにまかせることにしようよ」等々、居合わせた他の委員ともどもアイデアが次々に浮かんできて、とりあえず、来年のジュニア大会にあわせてやってみようということで話はまとまった。幸いにも、このアイデアは大方の支持を得、以下の実施要領で参加者募集が行なわれた。

1. ジュニアコンクール県予選終了後、審査が行なわれている時間に行なう。
2. 時間は約一時間程度。
3. メイン演奏者は60歳以上であること。（サブの演者の年齢及び人数の制限はなし）
4. 演奏の種類・方法は問わない。
5. 演奏時間は3～5分程度。（厳密な計時はない）
6. 最もこの大会に相応しいと判定された1名に優秀賞を、その他に敢闘賞・技能賞を授与する。
7. 審査は、ジュニアコンクール参加チームの小学生より選ばれた5名があたる。

大会には計8名のエントリーがあり、最高齢はなんと90歳であった。いずれも、年季の入った円熟した技のなかに独特のフラを含む誠に楽しい演奏であり、それまでチームの出来不出来に一喜一憂していた会場も、日本の太鼓が長年にわたって育ててきた芸能としての味わいを思い出し、一緒に楽しむことができたのである。ジュニアの部の審査員の方々が協議に入る前の空き時間を縫うように舞台袖で楽しそうに眺めておられたのが真に印象的であった。

そして、これらシニア勢の演技とともに、この大会において重要な役割を担ったのは、5人の小学生審査員である。

彼らは、各チームの演奏が終わるごとに、①音がよく出ていると思ったか ②パチさばきがよいと

思ったか ③見て聞いて楽しさを感じたか ④見ていて元気さを感じたか ⑤すごくうまいと思ったか、の5点について、観客の見守るなか、即座に○かそうでないか（手もとの札を挙げるか否か）の判定を求められた。すなわち、公開判定であるが、彼らは格別のプレッシャーを感じた様子もなく淡々と判定を下し、結果的にこの方式は大会をおおいに盛り上げた。判定が出るたびに会場から大きなよめきがあがったが、それは同時に子供達の的確な判断への賞賛でもあったと思う。

もとより、この大会は、優勝することや演奏の技量を競うことを目的とするものではない。いくつになっても太鼓をこんなにも楽しむことができるということをジュニアの諸君のみならず一般の方々にも知ってもらいたかったのである。コンクールに参加した諸君にとって日々の練習は苦しいことばかりであったろうが、それに耐えたむこうには、こんなにも楽しい世界が待っていることを、身をもって知って欲しいというのが関係者一同の唯一最大の願いであったといっている。

このように、ヒョウタンからコマのようにして始まった大会ではあるが、終わった今になって考えてみると、この大会は、すでに始まっている高齢化社会にむけての、とても大切な試みなのではないかとも思えてくる。同時にまた、従来、かけ声倒れの感のあった“日本の太鼓の伝統の見直し”ということに関しての、足元の部分からする具体的な試みでもあったといえるのではあるまいか。

その意味で今後は、単にジュニアコンクールの添え物ではない、より大きな大会に育てていくという展望も持たねばならないだろうとも考えている。

最後に、栄えある第一回の受賞者の方々を紹介して、この稿を終えることにする。

優秀賞 井戸 竹次郎（輪島祭り太鼓）

敢闘賞 東出 南弥子（共栄太鼓風雅）

今井 博（七尾豊年太鼓）

高沢 正一（七尾豊年太鼓）

技能賞 池田 喜代治（城山太鼓）

高 銃太郎（加賀白山太鼓吹雪会）

斉田 米夫（友禅華太鼓）

高森 孝夫（七尾豊年太鼓）



（優秀賞の井戸竹次郎氏90歳）



# 日本太鼓と学校教育ー20

前号に引き続き、畑忠夫氏(京都府・<sup>かめおかさむらいたいここきょう</sup>亀岡武士太鼓鼓響)より、指導内容について寄稿いただきましたので紹介します。

## 「亀岡市における学校教育としての太鼓Ⅱ」

<sup>かめおかさむらいたいここきょう</sup>亀岡武士太鼓鼓響 代表 畑 忠夫



(亀岡小学校さくら学級・障害児学級)

前号で小、中学校における太鼓指導概況を報告いたしました。今回は、亀岡市並びに近隣町で私たちが取り組んでおります現況を報告いたします。

前回に申し上げましたが3人が手分けをして13校20クラスを担当しています。毎年4月に学校長からクラス名、生徒数、担任名、希望曜日、時間、場所、太鼓の有無、などを記載した太鼓指導依頼書を提出してもらい、各自治体の教育委員会の承認を得てスタートします。3月の年度末には各教育委員会に太鼓指導報告書を提出しております。学校指導に関わることになったのは平成元年からですがこのように多くの学校に指導に行くようになったのはここ5年ぐらいです。

指導方法は障害児と健常児とでは到達目標が違います。障害児は太鼓を使って一緒に遊ぶ事からはじめますが、人間関係を築くのに1学期間が必要です。2学期は太鼓に興味を持たせて太鼓に向かう意欲を引き出します。これが最終到達点ですが、興味を持たすためにはテンポのいいリズムミカルな曲をまず教えます。打てる事が自信につながります、出来たときの誉め方も大切です、すべての教職員の協力は欠かせません。パチの持ち方、足の位置、構え方、手の上げ方などは曲を打てるようになってから少しずつ直していきますが、出来るだけこだわらないように指導者間で意思統一しています。1校時の間教室にいることが難しい中で、さらに一人で打ちたがる協調できない児童がほとんどですが、まずそれを個性と受け止め、時間をかけて皆と協調することの楽しさを体感させることを、曲を覚えることよりも大切にしています。

楽曲は初心者向けに我々が作った簡単なリズムの「えんやとっこ」「元気いっぱい」と小口大八先生の「勇駒」を使わせていただいております。お世辞にもいい演奏とはいえませんが、毎年発表会では見ていただいた方に感動を与えてくれます。ただ、皆から誉められ自信過剰になってしまい、小学生の太鼓の力量では、初心者の健常児には通じますが、経験者の中に入ったときその自信が挫かれることを危惧しております。

健常児の指導法は、最初に日本太鼓の成り立ち、太鼓の構造、パチの種類、打ち手の心構え、楽譜の読み方などを日本太鼓教本を基に講義を行います。

実技は1回目だけストレッチ体操を、怪我防止のために指導します。また終了後には整理体操も教えます。ただ1校時の間に毎回体操を入れる時間がなく一応毎日体は動かしているという前提で省いています。基本打ちは全音符、2分音符、4分音符、8分音符(4色の音の大きさ)右手と左手の8分音符、16分音符を手の上げ方と構えを重視してかなりの時間を充てます。合わせて連打の練習、鼓面の使い分けなど基本を重視した指導方法で、手が正しく挙げられるようになってからは「えんやとっこ」「勇駒」と亀岡の地域の太鼓を教えています。

亀岡市だけでなく、船井郡園部町でも指導しておりますが、毎年秋に開催される「SONOBEビートフェスティバル」が、今年で4年目を数え、名実ともに園部町内学校対抗太鼓合戦に成長しました。園部町にある公立中学校は1校なので、複数の小学校の出身者が1校に集まります。この利点をいかし、小学校で基本をきちっと教え、中学校で、さらに上を目指させるように練習に精を出しています。ゆくゆくは、日本太鼓ジュニアコンクール全国大会に京都府代表として出せないかと夢を語っています。

我々にとって一番よかった事は、今中心になって教えておりますメンバーが統一した指導法を取ってきたことです。一年間の長丁場で、週5~6日を使って走り回らなければなりません、どうしてもダメな日は交代が可能だからです。これは、統一した指導者研修会を続けてきた成果かも知れません。

平成4年から続けております教員対象指導者研修会は4級、5級の認定資格取得者も着実に増えてきました。

只今、障害児クラスの取り組みとして、今年10月30日(日)に亀岡市制施行50周年記念事業として開催される「第7回日本太鼓全国障害者大会」にて、亀岡市内16小学校の障害児学級合同発表を目指して準備と練習を始めています。



(園部小学校ふれあい体験教室)

## 「アジア子ども文化祭」

10月7日～11日の5日間「アジア子ども文化祭～東京公演～」が行われ、千葉県「のさか太鼓」が参加しました。これは(財)日本テレビ放送網文化事業団等が主催となり、日本、タイ、ラオス、ベトナム、カンボジア、インドネシアの子ども達が、各国の伝統芸能の披露や合同キャンプでの交流を通じて、お互いの文化を学び、大事にする気持ちの育成を目的に開催されました。4日間寝食を共にした子ども達は、言葉や習慣の違いを乗り越えて、交流を深めました。

最終日の11日にはよみうりホールにおいて、古くから伝わる各国に根ざした伝統芸能を発表しました。

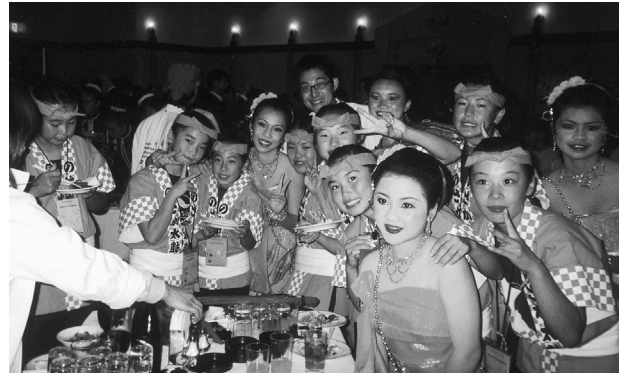
### 「アジア子ども文化祭」に参加して

多田 笑理 (13歳)

私は5日間の合同キャンプで沢山友達ができたと  
思います。そして協力性や団結する事も学んだと思  
います。

1日目はあまり交流することもできず少し不安で  
した。でも2日目くらいからは何かがキッカケで、  
英語の単語や身振り、手振り、表情などで話すみた  
いなことをしたり、一緒に行動したりできたので、  
不安もとれ、すごく楽しかったです。グループで行  
動する運動会や布に絵を描く行事でも「あしょう」  
「こうしょう」など自然にできたので、言葉が通じ  
なくても分かり合えるんだなあと思いました。文化  
発表ではどの国も踊りで、手や首の動きにおどろき  
ました。初めてアジアの踊りを見て感動しました。

舞台本番では、すごく緊張しました。ミスをしてし  
まった曲もあり、後悔したのがありますが、自分なり  
に精一杯打てたと思います。他の国の発表もリハーサ  
ルよりも、衣装をつけていたのでとてもキレイでした。



(交流会の様子)

エンディングの「ハロー・マイ・フレンズ」も完パ  
キに覚えみんな揃って踊れたので楽しかったです。

「さよならパーティ」では、初めは色んな子ども達  
と写真を撮ったり、最後の文化発表をしたりして盛  
り上がっていたけれど、段々と元気がなくなる子も  
出てきて、同じ班のベトナムの子は涙目になってい  
ました。キャンドルからみんな一斉に泣き出し、私  
も想像以上に泣きました。5日間のたくさんの思い  
出が頭に浮かぶたび涙が止まりませんでした。キャン  
プの後半くらいで仲も深まってきたのに、そこで  
別れるのはとても辛く悲しかったです。でも、一緒  
に生活してきた全員に見送られて嬉しかったです。

最後に、キャンプリーダーのみなさん、私達のた  
めにたくさんのことをしてくださり、本当にありが  
とうございました。そして、太鼓の先生方、親、こ  
のキャンプにかかわった人全員に感謝しています。

言葉が通じなくて大変だったけれど、たくさんの  
思い出ができました。この思い出は一生忘れません。

### ジュニアコンクール出演団体決定

第7回大会は、各都道府県の予選大会(参加チーム318団体、出場者3,559名、観客数19,347名)で優勝したチ  
ーム等が一堂に会し、これまで以上の熱演が予想されます。出場されるジュニアの皆様には相手への思いやりはもちろ  
ん礼節を重んじ、ジュニアらしく真摯で元気ある演奏を期待しております。

名 称：総務大臣杯・文部科学大臣奨励賞 第7回日本太鼓ジュニアコンクール

期 日：2005年3月20日(日) 開場10:30 開演11:00 終演予定18:00 (リハーサルは前日)

会 場：神奈川県立県民ホール(横浜市中区山下町3-1 Tel. 045-662-5901)

入 場 料：前売2,000円 当日2,500円

#### 第7回日本太鼓ジュニアコンクール出場団体(33都道府県40チーム)

寿子ども蝦夷太鼓同好会(北海道道東)、厚別本陣はなます太鼓(北海道道央)、赤平火太鼓保存会(北海道道西)、室蘭和  
太鼓會(北海道道南)、名農豊穰太鼓(青森)、松川一の宮太鼓 花組(岩手)、利府太鼓(宮城)、刈和野大綱太鼓(秋田)、  
龍連山太鼓道場「纏組」(山形)、山木屋太鼓クラブ(福島)、日立風流太鼓大蓮(茨城)、ゆりかごわんぱく太鼓小学生 Jr.  
チーム(栃木)、上州榛東ふるさと太鼓(群馬)、高野右吉と秩父社中(埼玉)、のさか太鼓(千葉)、和太鼓大元組(東京)、  
星槎学園高等和太鼓部 響、光明学園相模原高等学校 和太鼓部、相州海老名東柏太鼓、県立中央農業高等学校、秦  
野観光和太鼓(以上神奈川県)、越中いさみ太鼓飛龍組(富山)、手取亢龍若鮎組(石川)、県立山梨園芸高等学校 すいれき  
太鼓部(山梨)、青木村義民太鼓保存会 こまゆみ会(長野)、明宝磨墨太鼓保存会(岐阜)、はいばら太鼓保存会(静岡)、  
津高虎太鼓(三重)、大和の響き.京(京都)、播州新宮越部太鼓(兵庫)、掛合太鼓保存会 和童(島根)、絆太鼓(福岡)、小  
城太鼓小天狗(佐賀)、おおむら太鼓連くじら太鼓(長崎)、人吉ねぶか太鼓(熊本)、院内童龍太鼓(大分)、串間くるみ  
太鼓(宮崎)、霧島九面太鼓保存会 女子部(鹿児島)、金光藤蔭高等学校和太鼓部「鼓響」(大阪)、広島山陽学園山陽高  
等学校山陽太鼓「弾」(広島)

特別出演：華太鼓かんなの会「ふじ組」(宮崎・第6回優勝チーム)ほか